「ありがとう」私はそうして荷物を受け取った。小さい段ボール箱だ。割れ物注意のシール。私はこの荷物の中身を知っている。洋服なんかじゃない。化粧品でも、可愛いぬいぐるみでもない。小さい命だ。ボロボロで今にも死にそうな、小さい命。私は自室へ向かう。そうしてこの箱を開けるのだ。ゆっくりと、覗き込むように。誰にもバレないように。